

第13回 議員定数等議会改革推進特別委員会

日 時：令和2年8月5日(水)
9時30分～時 分
場 所：第4委員会室

【出席者】 牛尾委員長、西川副委員長、沖田委員、小川委員、笹田委員、佐々木委員
西田委員、西村委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 古森局長、下間書記

議 題

1 議員定数等について

- ・【各会派等の意見】 議員定数を考える視点について

資料1

2 その他

【各会派等の意見】議員定数を考える視点について

	山水海	創風会	未来	超党はまだ	公明クラブ	浜田共産クラブ	市民の風
各会派等で考えている定数案 (R2.8.3時点)	7人×3委員会+議長=22人	会派では22人と20人とで分かれている。18人はとても厳しい。会派で1本に絞れというなら20人の方が強い。	最終的な摺合せには至らなかったが、22人か24人かという状況	現行の24人が妥当	6人×3委員会+議長=19人 本会議で議長が採決に加わることを避けるためには偶数が望ましく、19人+1人=20人	現状維持の24人と答えざるを得ない	6人×3委員会+議長=19人
(1) 議会の機能から考える							
①政策立案機能・行政監視機能:合議性 【一定時間内に突りある議論ができる人数】×【常任委員会の数】	エリアの特性もあり多様な意見が必要。現行から極端に減らすことは難しい。委員長が採決に加わらないことから、各委員会（現在、常任委員会は3つ）の定数を奇数で考えた場合、各5人+議長であれば16名、各7人+議長であれば22名。前述の懸念点を踏まえ、各7人+議長の22名を採用。	常任委員会の1委員会の人数は今までだいたい8名できた。7名ずつなら21名。二元代表制の一翼を担うなら、大事なのは議員1人1人の資質である。浜田市議会は18名でもやっていけるという声もあったが今回はそこまでは難しい。	削減ありきではないという入り口論だった。現行の常任委員会の質問の在り方、一般質問の中身、執行部とのやりとりを見ていくと、十分ではない。マニフェストランキングは県内8市でずば抜けているが、議員のレベルをあげないといけない。24名でやっても良いのではないか。	議事機関としての議会を保障し、熟議を行うことが必要。現行の24人が妥当。それでも理解が得られないとすれば、前回の定数の議論にあった22人も最低基準だとして死守すべき。	委員会の人数は6名から8名が適切ではないかということが一般論であるが、委員会での質疑の状況を見てみると低い状況にある。その中で8名とか7名とかいう人数は説明して理解していただくのが難しい。このため1委員会6名が妥当。	・面積、人口、財政だけでなく、一般質問や議案質疑、委員会質疑の回数、人数等についても調査研究し、議会の中身、議員の質の面で他市との比較を市民に示す必要があると思う。 ・アンケートを定期的実施してほしい、多く実施してほしいという市民の声に答えるためにも、進化したアンケートを継続して実施していけば、これまでとは違う結果になる可能性もあると思う。 ・一般質問の実施人数（実施率）における類似団体との比較では、少なくとも浜田市は真庭市や三次市よりは数段優れた実施状況にあり、健闘しているといえる（残念ながら、その事実が市民に知られていない。議会が市民に知らせていない）。	常任委員会の構成委員は6人～8人とする議会が多いが、議会改革を進める浜田市議会としては6人とすべき。
②広聴機能:代表性 地域の多様性のある意見を必要十分に反映できる人数	自治区制度が新制度に代わろうとしている。現在は各自治区に居住する議員が選出されており、現行の選挙制度を採用する限り、ある程度の定数を確保する必要がある。こうした観点からも、このタイミングにおける極端な削減は避けるべき。	地域の多様性のある意見を聞くのも大事だが、議員が何人なら届くか、何人なら届かないかではなく、議員の資質が最も重要である。	有権者は前回と千人程度しか減ってない。広聴機能からしても24名は必要。	議員は住民を代表する役割りもある。地域課題等市全体を考え、少数意見も含めて、多種多様な意見を審議に反映させ合意形成を図るにはある程度の人数は必要がある。24名より増やすのは難しいが、24名で市民全体の各層の意見が全て網羅されているとはいえない。議会改革を進めていくためにも、一定程度の人数のゆとりは必要。少数精鋭の考え方は定数にはなじまない。	・住んでいる地域、これまでの各議員が育ってきた環境を踏まえ、多様性のあるところで、いろんな意見を出して反映するのが重要な視点 ・福祉向上のための多様性としての定数をどうもっていくか、それぞれ出てきた議員がしっかり意見を出し合い、多様性を機能させることが非常に重要。議会機能を果たすためには全議員がしっかり審議の準備をし、自分の意見を少しでも反映させる努力をすることが大前提である。興味がないから発言しないということでは審議としての機能を果たせない。その辺りは十分に議会機能という視点で各議員が努力するべき。	・市民の代弁者である議員の数はできるだけ多いほうが良いとは思いますが、定数削減を望む声が多い現実がある以上、現状維持を主張する以外にない。	定数削減により広聴機能が損なわれないように選挙区制の再導入も検討すべき。

【各会派等の意見】議員定数を考える視点について

	山水海	創風会	未来	超党はまだ	公明クラブ	浜田共産クラブ	市民の風
(2) 市民の視点から考える							
①人口規模	状況が異なるので、一概に参考にならない。浜田市独自で判断すべき。		益田市と比較した場合、人口規模で言えば、24でも良い。	類似団体ではそれぞれの条件の違いがある。当該市にとっては整合性があったとしても、基準にはならず、あくまで目安にしかならない。その定数に至った時の市民の意見と議会側の考え方の違いを読み解くような中で参考にはできる。	ある程度は考慮が必要であるが、決定的な議員定数の議論になるとは言い切れない。しかし考慮は必要。	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで議員の資質を問う意見が多かったことは、客観的事実として受け止めなければいけない。しかし、仮に浜田市の議員の資質が他と比べて劣るとしても、そのことと定数問題は基本的に切り離して考えるべき。仮に24人を20人にしても、それで議員の質が上がるわけではない。 	人口減少に合わせて議員定数も削減する時期である。
②他市比較							
③財政面	財政視点に立脚すれば定数削減も多少の効果は見込まれるがそれだけで判断はできない。浜田市の議会費は予算規模に比べ小さい。	議員を減らしても財政面はさほど変わらない。	浜田市議会のコストは平均より低いので、現状に何ら問題ない。	間接民主制を維持するためのコストは必ず必要になる。議員をどれだけ減らせば財政的な改善になるかという意味では、減らすことによる弊害のほうが大きい。		<ul style="list-style-type: none"> こういうアンケートを定期的にやってほしい、もっと自分たちの意見を直接聞いてほしいという意見が多くある。議会報告会をやっているが、おそらく望むやり方ではないのだろう。もっと日常的に気楽に自分の意見を述べたり、議員の意見を聞いたりする場がほしいのだろうと、素直に受け止めた。 市民の意見を受け止めてもらっていないことへの反発の気持ちだが、定数を減らす意見につながったと受け止めた。財政が厳しいから議員を減らすべきだという意見については、支出を減らす要素はいっぱいある中で選択肢の1つとして選択したのだろうが、この点は理解できない。 	浜田市の一般会計に占める議会費の割合は0.8%で、全国の市・区の平均(0.85%)と比較しても高くない。定数削減で削減した費用を、議員報酬・政務活動費の見直しに充てる議論もすべき。
④今回実施した議員定数等に関するアンケート結果	アンケートの結果は重く受け止めなければならないが、最終的には議会としての考え方をその根拠とともに示し理解を求める必要がある。特に、仮に最多数であった18名としない場合。 また、議員の質が低いとのご指摘も多数あったが、政務活動費の議論は同時にすべき(山水海としてはあげるべき)。		当初は議会報告会で正副議長から説明してもらい、その場でアンケートを取る予定だった。それに比べると結果が違うのだろうが、この結果の中から読み取るものは随分ある。 今後も市民に対する議会のあり方を変えていかないといけない。そういう中で言えば、3.5パーセントだったが、やはりそれは民意として受け止めるのであれば、22人もやぶさかではない。	アンケート結果は謙虚に受け止めるが、公表のあり方を委員会としての検証すべき。今回のアンケート方法は、無作為抽出しての全体的な意見反映ではなく、市民全体の縮図にはなっていない。意見には二元代表制に対する議会への誤った認識や、議会改革の課題や議員の資質と定数問題を混同して「減らすべきだ」という意見が多かったが、24名を支持する意見は大変重要。アンケート結果は参考にしたり、議会改革のヒントにはなるが、定数の検討にあたっては結果に縛られるべきではなく、議会が独自性をもって決定すべきものと考えている。	最新の大きな材料。アンケートはしたが、議会の中身が市民に伝わらなかった。代表的な声としては議員が議会以外で何をしているか分からない。もっと市民の意見を聞いてほしい。広聴してほしいというのが多くの意見としてあった。我々はそれをどう受け止め、声を反映させていくかが重要。その取組が定数の一定の理解に繋がる。アンケートをとった以上、それに対する答えを出していかなければならない。議会で議員の動きがなかなか伝わっていないから議会側と市民側との認識の違いがあり過ぎる。	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果は厳粛に受け止めないといけないが、それをほぼ鵜呑みにする形で自分の判断とするようでは、議員として情けない姿勢であると思う。 	アンケート結果は議論の参考として扱うものではあるが、定数を減らすべきという意見が大多数であったことや、議員への不満や批判のコメントが多く寄せられてことを厳粛に受け止めて、今後の議論を進めていかななくてはならない。

【各会派等の意見】議員定数を考える視点について

	山水海	創風会	未来	超党はまだ	公明クラブ	浜田共産クラブ	市民の風
(3) 浜田市の特異性から考える							
①浜田那賀方式自治区制度	前述のとおり	特性は分かっているが議員定数を絡める問題ではない。	浜田市は面積が広いので一定の人数は必要。	定数が減れば減るほど地域の声は反映されにくいのは当然。	どれも浜田市にとって重要な事項だが、これについてどの程度、議会・議員として取り組んでいるかという点、それぞれ得意分野もあることなので、なかなか定数に対する理由づけが難しい。しかし浜田市にある特異性はそれぞれがしっかりと勉強しながら、施策や提言に反映させることも重要と考える。		自治区制度は廃止されるが、各地域の代表の必要性については、地域の住民の意見を聞く必要がある。
②特定第三種漁港・重要港湾	議員定数に関して特段考慮の必要はない。		特三は非常に重要だが、定数に反映はしない。	定数削減を求める方々に理解を求めるための根拠としては弱い、浜田市の特徴ではあるので要素としては必要。			
③広い市域	前述のとおり		同じくらいの面積の益田市が22名なら浜田市も22名が良いとなる。	面積人口方式により計算すると、今の浜田市の人口や面積からするとだいたい23人程度になり、面積部分だけを計算すると同じ人口比率であれば4名程度増える要素になっている。以上から最低でも22は死守、現行の24が妥当ではないかということもそれなりの根			面積と議員定数の相関関係はない。
④その他			条例提案する場合は、当初のスケジュールどおり9月定例会議中に提案すべき				